



## グローバル化と見えない敵との戦い (1) 情報オーバーロードとカオスの時代

ヘラクレイトスは言う。

「常なるものなし、変化以外は。」(*Nothing is permanent except change.*)

「グローバル化」についての議論も出つくされた感があるかもしれないが、世の中に変化があるからこそ、「グローバル化」の中身も変化してきている。その中で、最近特に感じるのが、「見えない敵との戦い」が増えてきていることである。

ヒト、モノ、カネ、情報の流通において、カネと情報はある意味で昔から目に見えない部分であった。しかし、「人、モノ、カネの移動性の高まり」+「情報へのアクセスの容易化」の組み合わせが「絶対情報量の急増」を生み出している。パソコンが処理してくれる情報量が増えているとはいえ、残念ながら、その処理された情報を取捨選択し、分析する側の人間の脳の消化できる情報量はそこまで変わっていない。結果的に、一見矛盾するようだが、情報オーバーロード(情報過多により、必要な情報が埋もれてしまったり、判断が下しにくくなったりする現象)が起き、かつてよりも見えにくくなってきている部分がある。透明性、コンプライアンス、「見える化」等をすすめるようとする動きがあるが、「見えない拡がり」の拡大スピードはそれを勝っている。

「情報の流れ」についてジョセフ・ナイ(Joseph Nye)米ハーバード大学特別功労教授が指摘する。情報は既にトップ・ダウンでなく、横に広がるようになってきている。そして今世紀は2種類の大きなパワーシフトが起きている。国家間のシフトが西から東へ、そして、政府から非政府(non-state actors)へ。

パソコンや携帯電話等のメディア媒体へのアクセス障壁が減り、人々がインターネットという情報収集・発信ツールを手に入れたことにより、「国家」と「国家」の戦いは「国家」対「利害集団」(民族、部族、宗教、労組、失業者、学生等)の戦いに形が変わってきている。その戦いは平和的な抗議行動であることも多いが、暴力的になることもある。

情報収集・発信手段と交通面での移動手段を活用して、民主的に人々を動員することができる「新しい力」を手に入れた(empowered)人々が増えることは、「人々の声が届くチャンスが広がる」という面で喜ばしいことである。しかし、その「新しい力」を利用する人々が、自分たち

の声を届けるために何らかの平和的・民主的手段としての「政治」ではなく、暴力的な手段を利用するリスクも同時に増加している現実もある。

つまり、誰がいつどこを狙ってくるのかが見えない「テロ」という形態も、昔以上に、いつ、どこで、誰の手によって起こされるか分からなくなってきた。

低コストでの物品輸送が可能になった現在、人も低コストで移動することが可能になった。ハイ・スピードで移動する人の数がこれほどまでに増えたことは歴史上にない。移動の手段も多岐にわたり、「国家」という観点での監視は日に日に難しくなっている。防犯カメラ一つをとってもそうである。脅威への監視の目を増やそうと努力しても「年度予算」と「選挙」という周期で動く政府はその枠組みを超えることができない。

一方、個人集団という幾らでも形態を変えられるゲリラ的な「利害集団」は資金なしでは動きにくいということはあるが、年間予算を超えた 10 年単位の長期持久戦に挑む傾向をもち、砂のように、なかなか掴む事ができない。

問題は爆破等の目に見えるものだけではない。核や生物・化学兵器の脅威、そして、サイバー・セキュリティも今後、どんどん問題になっていく。

**「力を持った利害集団の急増」 vs 「限られた資源」 = ?**

歴史を見る限り、「紛争」がこの方程式の答えのように感じる。「歴史は繰り返す」と言う。情報オーバーロードがもたらすカオスの時代に、我々は歴史から学び、「紛争」ではない「新たな道」を生み出していくことができるだろうか。

濱 美恵子(問合せ: [mh@komatsuresearch.com](mailto:mh@komatsuresearch.com))

#### ▼参考レポート

- テロへの対応策、対テロ予算の肥大化の脅威や化学・核・生物兵器の脅威等については、小松啓一郎が月刊「時評」にて分析しているので、ぜひ参照されたい。

[http://komatsuresearch.com/index\\_files/jp\\_publications\\_Jihyo.htm](http://komatsuresearch.com/index_files/jp_publications_Jihyo.htm)